

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連 有・無
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	ブックスタート事業(主要事業)							
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	母子保健担当係長 加藤育子
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	母子保健	コード	2 1 2
	項	健康			単位施策(中)	子育て中の親に対する支援	コード	2 1 2 3
					単位施策(小)	子育て情報提供の充実	コード	2 1 2 4 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	3か月児健診受診児 670人		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	絵本を通して親子のふれあいの時間の楽しさや大切さを実感し、日常の子育てに活かすことができる。			
1-5 事務事業の内容	3か月健診時に、「読み聞かせ」ボランティアグループが実際に親子に読み聞かせの場を体験してもらう。ブックスタートセットを渡し、家での赤ちゃんや絵本との出会いを作る。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	当事業は17年度から開始しているが、今年度は特に改善すべき点もなく継続実施している。	少子化や核家族化等の影響もあり育児経験が少ない親が増え、子どもとのかかわり方がわからない親も増えている。		ブックスタートを知らなかった人もこの事業を通してその意義を理解し日常生活に取り入れるなど認識が高まった。	
	平成19年度					
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	ブックスタート事業実施回数		24(回)	24(回)	子どもとのかかわり方がわからない親に絵本を通して親子のふれあいの時間の楽しさや大切さを伝える。子育て支援や情報提供の充実度を表す指標 年間実施回数 【資料】とよあけの保健

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(回)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	24									
	人件費 c(千円)	1,200									
	合計コスト d(b+c)(千円)	739									
	単位コスト d/a(千円)	1,939									
	実施回当たり	80	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 【直接事業費】消耗品(ブックスタートセット等)1,200,480円 【人件費】この事業にかかる延時間216h/年 216÷1,960h(年間総稼働時間)=0.11 6,702,000円×0.11=738,588円

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(単位)	24(回)										
後期目標値に対する達成度(%)	100(%)										

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A										

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	子どものかかわり方がわからない親は増加すると思われる、今後はさらに関係機関との連携やNPO等との協働体制が重要となる。	方法等は変えないが、配布する絵本等は年々更新を図る。	事業実施後の対象者の感想を伺うアンケートも実施したが、好評を得ており日常生活にも活かされていることもわかり有意義な事業と感じている。
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度		
平成20年度		
平成21年度		
平成22年度		
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		